

第33号

HAI

KEI

SHIN

BUN

発行日 平成16年10月15日
 発行 社会福祉法人 和敬会
 〒441-1318 愛知県新城市
 八東徳字天王1032番地の2
 TEL (0536)22-0760
<http://www.wakyokai.or.jp/>

●この広報紙は地球にやさしい再生紙を使用しています。

長寿ばんざい。

 社会福祉法人 和敬会
 理事長 太田一平

まどかの郷では、今年9回目の「敬老の日」を迎えました。毎年、まどかの郷を訪れて、入所者の方々にお祝いを申し述べるのが恒例となりました。今年のもどかの郷の長寿番付は横綱が、伊藤はなさん97歳です。とてもお元氣そうで、血色の良いお顔をなさっていました。長寿おめでとうございました。ますますお元氣でお過ごしくださいませ。ちなみにまどかの郷には、90歳以上のお方が80名中22名おられます。しかし、まだまだ日本にはすごい方がいらつしやいます。

厚生労働省は14日、2004年の長寿者名簿（長寿番付）を発表しましたが、9月末までに100歳以上になる高齢者は2万3038人で、昨年よりさらに2000人以上上ふえ、過去最

多を更新しました。

最高齢者は福岡県飯塚市に住む小山ウラさん114歳。長寿番付の38位までが全員女性でした。まどかの郷でも最高年齢者は、やはり女性です。是非とも皆さん日本一を目指してすこやかに、生きがいを持ってお過ごしください。

まどかの郷の敬老会には豊田市の「キッズフリースタジオ」（代表オーヤン・ペイ）の子どもたち総勢48名がお祝いに駆けつけ、元氣なダンスを披露してくれました。また、毎年恒例の八楽児童寮の子どもたちの訪問では、草取り等のボランティア活動を行いました。

防災の日特集

9月1日は防災の日。まどかの郷では15日県民総ぐるみ防災訓練の二環として大がかりな防災訓練を実施しました。今月発生（5日）した紀伊半島沖連続地震の記憶がいまだ生々しく震度4の地震発生を想定しての訓練となりました。訓練中はいやがうえにも緊張感が漂い、デイサービス利用者の方の避難誘導、特養の防火ダンパー閉鎖、人員点呼、消火器による初期消火訓練はきびきびと行われました。訓練終了後、酒井幸田消防署長さんが「三河大地震の体験をされている皆さんです。備えあれば憂いなしで常日頃の備え・訓練を大切にしてく



ださい。」と訓示を述べられました。

ところで、酒井幸田町消防署長さんの訓示にもありました昭和20年1月13日未明この地方を襲った三河大地震とはどのような地震だったのでしょうか？柳瀬つまさんにお話を伺いました。

三河地震体験談

 ケアハウス
 柳瀬つまさん


「あれはなあ〜戦争中のことだった。昭和20年1月13日の真夜中。わしは岡崎の空襲で焼きだされ三河湾に浮かぶ佐久島に疎開していたな。そこでのことじゃった。突然、ドッドーンと大きく揺れて三ヶ根山の方から火柱が上がったんじや。もうびっくりしてな。こりゃあ相当ひどい被害になると胸騒ぎしたのをいまでもしつゝかりと覚えておるわ。島の建物もな。大部分が壊れてそりゃあひどかった。わしもな、屋根のなくなつた建物の中で、余震の恐怖に震えながら1ヶ月近くも過ごしたんじやがな…。もう〜あんな怖い思いはしたかないなあ。

このときの地震で大きな2メートルもの断層ができたのがいまの深溝断層だよ。

聞き手：ケアハウス・伊吹 舞

私の楽しみ

「八楽」の名にちなんで、八楽児童寮ゆかりの八人の方にお聞きしている「私の楽しみ」。今回は八楽のお向かいにお住まいの「善さん」とこと牧野善さん(82)です。和敬会の理事を歴任していただいたこともあります。2年前から世代を超えた交流をと、ご自宅で月に1度「信玄ふれあいサロン」を開催されています。

—— 善さんの楽しみを聞かせて下さい。

わしの楽しみと、児童寮との思い出を並べようかね。25年前に国際児童年を記念して豊橋児童相談所の持ちかけで、児童寮チームとわしが監督する信玄(地区名)チームとでソフトボールの試合をしたんじや。交流が目的だったな。

—— 同じ学校に通う仲だったのに改めての交流ですか？

今はそんな感じもないが、そのころは寮の子は寮の子、地元の子は地元の子という感じだったな。改めての交流という感じだったな。この地区の子どもの会の立ち上げにも関わったが、その時も寮の子と一緒に考えるかどうかという話しが出たんじやよ。

—— どうなったんですか

そりや分け隔てなくということと二緒に始まったよ。始まってみると寮の子が体育大会で大活躍したりで楽しいこともたくさんあったな。

—— 今は本当に分け隔てなくしてもらってますか
らね。善さんのおかげですね。

そりやわからんが、地域のなかで月に一回でも「元氣かん？」と声を掛け合えるのはええもんだよ。



—— それが「信玄ふれあいサロン」を始めた理由ですか？

そうだね。高齢少子化でいろんな年代がふれあうことも減ってきたし、こういった交流は介護保険にお世話になる予防策にもなるからの(笑)。ゲームやバーベキューをしたり、手品を鑑賞したり。やることは色々じゃが難しく考えずに馬鹿になつて楽しめるのは健康の元じやな。これからみんな楽しんでほしいのん。

—— 本当にそうですね。今日はありがとうございました。

八楽の子ども達も「今度手品いつ来るの？」とふれあいサロンを楽しみにしています。これからも頼れるご近所さんとして、どうぞよろしくお願いします。



私の原点

児童指導員
長根 裕一

中学三年生頃までの私の夢は、エリートサラリーマンになることであつた。良い高校に行つて、良い大学に行つて、良い会社に行こうと思つていた。進路を決定する時期になると、いわば不良と呼ばれる子たちが荒れ出し授業妨害をしたらした。

私はその行為が腹立たしくイライラしていた。そんな私を気にしていつも側に来てくれる子がいたが、何故かその優しさにまで苛立ちを覚え、口から血が出るほどに殴ってしまった。その後、担任の先生に呼ばれ、私が殴った子は2年生の時に前の学校でいじめに遭い転校してきたことを聞かされた。いじめの理由は「在日朝鮮人」ということであつた。

転校してきてその子は私と出合つて「この子となら仲良くやっていける」と思つてくれたのだ。しかし、私はその気持ちを踏みにじつてしまった。また、授業妨害していた子も家庭や環境にいろいろ悩みを持ち、どうしようもなく不良をしているのだと聞かされた。

その時、相手の事を初めて考えたのだつた。「相手の事を想う気持ちを持つ」そんな気



持ちのかけら一つでもあつたら、私はその子を殴らずに済んだかもしれない。それよりも、その子の気持ちを踏みにじつてしまった後悔の念にさらされた。授業妨害していた子も、その「悩み」に少しでも触れられたら、自分の見方はもっと違つていたのかもしれない。それから、私は併願で合格していた私立を辞退し、本命の進学校への受験をやめて、彼らと深く関わり、一緒に勉強をしたく、同じ高校に行くことに決めた。彼らと話をしていくと、いろいろな事を考え、人として大事なものをたくさん持つていた。私は進路というものとらわれすぎ視野が狭くなり、大事なものが見えなくなつていた。とても恥ずかしかった。

またこの関わりの中で「人と向き合つて話すことは楽しい」と感じた。私はこの気持ちをいつまでも大事にしたいと思つた。福祉の仕事に興味を持ったのはそれからである。この時の出来事がなければ今の私はないと思う。

はちらく宝言!

— ほうげん —



愛知県新城地方の方言と言えは「じゃんだらりん」。有名な奥三河弁です。そして八楽児童寮には、たくさん素敵な子どもがいて、たくさん素敵な宝言(ほうげん)を聴かせてくれます。

「たった」

京都に出張したお土産のおやつを渡たそうとしたところ、8歳のY君「たった2つ？」と顔をしかめました。「そんなん言うならあげないよ」と手を引っ込めると「いやいやあ、うそうそ」と慌てます。ふふふと思いながら「そんなら『たった』じゃなくて、何て言う？」と尋ねると、即座に「3つ!!」



そうだね。お礼を言わせようなんて気持ちはいけないよね。誰だってたくさん欲しいもんね。喜んでくれてありがとね。



「おつかれさま」

夜9時頃出先から帰ると、寝ていると思った6歳のAちゃん。洗面所から「おかえり」と声がします。「ただいま」と声を返すと、姿をみせてペコッと一言。「おそくまでお疲れ様でした」。

!!どこでこんな言葉覚えただろう?ほんと、疲れも吹っ飛びました。「帰ってきたあ」って気がしたよ。

まどかの郷介護サービス窓口のご案内

敬老の日になみ、まどかの郷では介護サービスの窓口をご案内する
新聞広告折込チラシを幸田町内全戸配布しました。
介護サービスをご利用いただくためにもまずは相談窓口へのご案内が必要です。
まどかの郷では、在宅介護支援センターと居宅介護支援事業所の窓口を設けていますのでご利用ください。

ホーム
ページ
コラム

アセスメント センター店の家

児童指導員 川 真由子

9月から店の家の担当になり、3人の子どもたちと暮らすことになりました。新しく入所してきたのは、小学4年のK男、4歳のM子、3歳のM男。3人とも仲が良く、毎日元気に過ごしています。

K男はとてもやさしくて何かと担当のことを気遣ってくれています。外で遊ぶことが大好きで、学校から帰ってくるとすぐに「遊びに行ってくる」とランドセルを置いて飛び出していきます。寂しがり屋な二面もあり「どうせ俺なんか…」と拗ねたりすることもあります。一番年上ということもあってM子、M男と一緒に風呂に入ってくれたり、夕食を口元まで運んで食べさせてあげたりと、ほんとによく面倒を見てくれます。

M子は明るく活発。かけこが得意で運動神経抜群。散歩に出掛けたりすると「あそびまでどっちが先かよーいドン!」と言って目散に駆け出します。気が強く、弟のM男が遊んでいる玩具を横取りすることもしょっちゅう。私が注意すると「もう! 外行くもん!」と怒るものの、こちらの様子をチラチラ伺っていて、「言声を掛けられへへ」「あはは」といつものニコニコ顔に。

M男は人見知りをせず、誰にでも得意



のスマイルでとけ込んでいます。そんなM男の人柄を周りの子たちもかわいがつてくれ、いつも花の家へ遊びに出掛けています。K男やM子の後をついて回ったり、食事の1時間も前から食卓に座って「早く食べたーい」と催促し、モリモリ食欲旺盛です。好きなものは「おぼけ」。おぼけの絵がついたTシャツを毎日のように着て「おぼけーははあー」と喜んでいきます。

3人と暮らし始めた当初は生活のリズムも手探りの状態でバタバタしていました。が、早1ヶ月が経ち次第に落ち着いてきた雰囲気になってきました。生活の中で何よりも嬉しいことは3人が「今日の飯おいし!」「最高!」と満面の笑みを見せ、明るい食卓を毎日開けることです。M男がご飯をこぼせばM子「おい、ちびたろう」と突っ込み、「ははあ」と笑うM男を見てK男が「もうM男かわいー」とニコニコ。そんな日常の何気ない子どもたちのやり取りを見ていて私も和み、元気をもらっています。まだまだ始まったばかりの店の家ですが、子どもたちが安心してありのままの姿で生活できるよう、居心地のいい環境作りをしていきたいと思っています。

わいわいがやがや

まどかの郷
施設長 コラム

日本の家族による介護力は 2005年には世界最低に! ニッポンの不安を募らせる日本人は少なくない!



日本経済新聞が「未知なる家族」と題して特集記事を掲載しているが、お読みになった方も多かろうと思います。これがなかなかおもしろい。8月23日掲載の第1部ブローグから特集記事は始まるが、「人口減、ニッポンの大誤算」と見出しが躍り、これまで政府が定義してきた「標準世帯」が消えかけているという。その根拠として、すいかの生産地日本一の熊本県で、「家に子どもが少なくなったから丸くて大きなスイカが売れなくなった。だから生産量が半減した」と紹介する。そこで農家は対策として従来の三分の一の大きさの小家族でも食べきれぬ新品種に変えたという。そう言われればスーパーやコンビニ(デパ地下でもスモールサイズ(1人用)の惣菜、ツクがやけに売れている。また、子どものための祭りに子どもがいないと嘆く自治連合会のコメントがユニークだ。標準世帯とは夫と妻、子ども二人が基準というが、少子高齢社会のなかにあつて実態はかけ離れている。それどころか、夫婦と子どもから成る世帯より一人暮らしの単独世帯にまもなく追い越されるというのだ。家族のカタチ、

社会は間違いなく変わり始めている。変わる家庭像! と言えはグループホームとて血縁なききずなで支えあっている家族だ。いや家族ではないが、赤の他人ともいえない。これを「非家族同居の住まい」というようだが、厚生労働省はこのグループホーム増設に力をつけている。人と人の出会いの場をつくることも福祉施設が果たしている役割のひとつと思うのだが、。記事は止めをさすかのように日本大学人口研究所の試算を紹介し、「日本の家族による介護力は2005年には世界最低になる!」と、ショッキングなコメントで結んでいる。かつては日本ほど家族愛の強い民族はなかったはずなのに。確かに、高齢化はまだまだ進み家庭の介護力はさらに落ち込むことは間違いない。家庭の介護力が世界最低になるというのに厚生労働省は施設整備費の廃止・抑制をしてもいいものだろうか。在宅介護へ移行させていくにも家庭の介護力が世界低下では所詮、絵に描いた餅ではあるまいか。いまのままでは、福祉関係者ならずともニッポンの不安を募らせる日本人は少なくないはずである。

広報こうた(幸田町発行)9月号(No.759)「みんなの広場」に豊坂保育園とまどかの郷の交流の様子が紹介されました。



これまでに、広報こうたには何回かまどかの郷の記事を掲載していただいています。子どもたちとお年寄りの異世代間交流の様子がほのぼのと紹介されていますのでぜひお読みください。

はろー キッズ

わんぱくぐだより
「某日某日ー豊坂保育園」

まどかの郷との交流の巻

豊坂保育園は山に囲まれ、緑豊かな自然に恵まれています。身近な自然は子どもにとってとてもうれしい環境であり、散歩に行ったり、自然物を探取したりと遊びの中に取り入れています。また、付近には豊坂小学校やまどかの郷もあり、地域との交流を持つ機会にも恵まれています。

例年まどかの郷とは交流を行っており、主に年長児が参加しています。年に2回、1週間デイサービスの受け入れをしたり、5回はまどかの郷を訪問したり、園の行事にお年寄りを招待するなど、年間を通して交流があります。その中で子どもたちは、踊りを発表したり、歌を歌ったり、肩たたきや手遊びなどをしながらお年寄りとのふれあいを楽しんでいます。初めはちょっぴり緊張気味で恥ずかしそうにしていた子どもたちでしたが、お年寄りとの関わりにも慣れてきたようです。すると、肩をたたいてあげながら「どう気持ちいい!」と顔をのぞきこんだり、手が自由に動かないお年寄りの手を優しく持つ手遊びの誘導をしてあげたりしています。また、手をつないだ瞬間、硬かったお年寄りの表情が柔らかい笑顔に変わった時は子どもたちの力つてすこいなと感心させられました。お年寄りのかたも毎回楽しみにしてくださることも多く、涙を流して喜んでいるかたもみえます。これからも交流を通じて子どもたちの笑顔とパワーでお年寄りを元気づけ、子どもたちもまたお年寄りの温かさを感じ取り、大きくなってほしいものです。

(広報こうたより)



介護教室 開催

在宅介護支援センターまどかの郷では痴呆介護をテーマに介護教室を開催しました。講師に、呆け老人をかかえる家族の会愛知県支部代表の尾之内直美氏を迎え「ぼけと上手につきあうには」と題して講演いただきました。



平成16年度第1回介護教室（9月25日開催） 参加者コメント

介護される人も大変ですが、するほうも期限無しで大変です。このような教室で皆と話し合うと肩の力を抜くことも出来、参考になりました。ありがとうございました。

（梅田シズエ様・62才・幸田町野場区）

ありがとうございました。

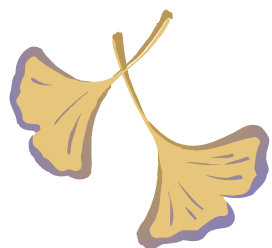
ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。（以下、寄付者とボランティアの方のお名前を記載いたします。）

寄付者の方々（寄付金／寄付物品を含む）

- 【まどかの郷】
 - 6月 社会福祉法人中部善恵銀行
 - 8月 山本レイ子
 - 8月 三浦久江
 - 8月 早川りょう
 - 8月 杉浦力雄
 - 8月 幸田町民生児童委員協議会
 - 8月 堀江浩一郎
- 【八茶児童愛】
 - 6月 山本レイ子
 - 6月 花王（株）
 - 6月 （株）星野企画・星野隆一
 - 6月 有楽製菓
 - 6月 福田哲子
 - 6月 原田純一
- 【その他】
 - 7月 西山美幸
 - 7月 山本伸二
 - 7月 津島子育センターレボキオ
 - 7月 （有）杉山ボトリ
 - 7月 なかよしチャリティ
 - 7月 歌うボランティア丸山隆史
 - 7月 近藤新市
 - 7月 静岡学園高校ボランティア部
 - 7月 稲石京子
 - 7月 アラマキフラワーズ
 - 7月 広中秋孝
 - 7月 医王寺 小川宏之
 - 7月 中野摩美
 - 7月 鈴木みき江
 - 7月 服部次郎
 - 7月 金子幸一
 - 7月 ミカワティエス（株）
 - 7月 新川君代
 - 7月 北川志奈子
 - 7月 （株）ステッフパーク堺店
 - 7月 （株）あいちゃ・鈴木証堂
 - 7月 石田屋
 - 7月 伊藤忠志他5名
 - 7月 竹川幹也
 - 7月 福田吉夫
 - 7月 スエヒロ産業願会

ボランティアの方々

- 【まどかの郷】
 - 6月 つといの会
 - 6月 草次斎付教室
 - 6月 幸田高校
 - 6月 南部中学校
 - 6月 幸田中学校
 - 6月 北部中学校
 - 6月 幸田町民生委員
 - 6月 大須賀サチ子
 - 6月 清友会
 - 6月 永野会
 - 6月 小鳩会
 - 6月 幸田町生活学校
 - 6月 ガールスカウト愛知114団
 - 6月 スマイル
 - 6月 山本レイ子
- 【八茶児童愛】
 - 6月 特定非営利活動法人夢シート
 - 6月 永瀬成昇
 - 6月 山本勝康 他15名
 - 6月 佐藤智子
 - 6月 斉藤清成
 - 6月 N.T.O.B.奥三会
 - 6月 茂津浩子
 - 6月 岩瀬義和
 - 6月 東上婦人会OB荒川栄子他8名
 - 6月 新宮領司
- 【その他】
 - 7月 永瀬成昇
 - 7月 新城市北部更正保護婦人会
 - 7月 N.T.O.B.奥二会
 - 7月 エフロン座
 - 7月 新設高校農業クラブ
 - 7月 新城高校生徒会
 - 7月 佐藤智子
 - 7月 岩瀬義和
 - 7月 山本勝康
 - 7月 森利夫
 - 7月 中日新聞社会事業団
 - 7月 永瀬成昇
 - 7月 ワッカの会・今泉忠夫
 - 7月 半田光子



草々

FAXの場合
0536(22)0762
社会福祉法人 和敬会
拝啓新聞編集室まで

今回の記事についてのご感想や新コーナーのご提案、近況報告など皆様からのお便りをお待ちしております。